

重要業績評価指標（KPI）

約7割の重要業績評価指標（KPI）で順調に推移

- 評価対象となる36事業の42のKPIのうち、約7割にあたる29のKPIで目標値を達成又は基準値に対し上昇（参考：R2は27KPIで目標値を達成又は基準値に対し上昇）
- 一方で、11のKPIで低下（参考：R2は11KPIで低下）。令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していたイベント等の中止（地産地消マルシェ）や観光客をはじめとする人の動きの停滞（観光入込客数、賀陽IC～北房JCT間の交通量、ファジアーノ岡山、岡山シーガルズホームゲーム入場者数、図書館の年間貸出冊数、子どもパスポート掲載施設の利用者数）などによる実績の低下等が見られる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の中、取組を継続するため、リモートによる交流学習や移住相談会のオンライン化などの対応を行ったが、地方移住の関心の高まりやグリーンリカバリーの機運向上など社会環境の変化に合わせ今後さらに取組の深化が必要

【KPI評価一覧】

連携分野	◎	○	△	×	合計
I 圏域全体の経済成長のけん引	5	4	1	4	14
II 高次の都市機能の集積・強化	5	5	0	1	11
III 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	5	5	1	6	17
計	15	14	2	11	42

■ 評価の基準

評価対象：事業を実施しているもの

評価対象となる42のKPIについて、下記の4区分で評価

「◎：目標値を達成」「○：目標値に達していないものの、基準値に対し、上昇」

「△：目標値に達していないものの、基準値に対し、横ばい(変動率±0.5%の範囲内)」「×：目標値に達しておらず、基準値に対し、低下」

※第2期ビジョン（R4年度～）のKPIは、事業の見直しにあわせて設定し直しているため、上記が示す第1期ビジョン（～R3年度）のKPIとは異なる